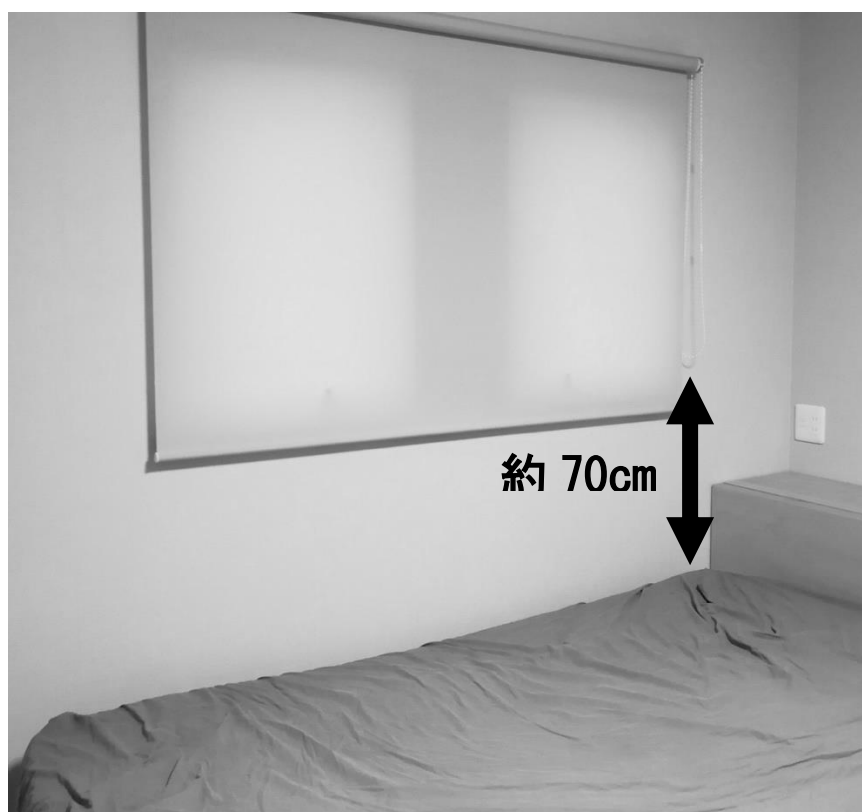


Injury Alert (傷害速報)類似事例

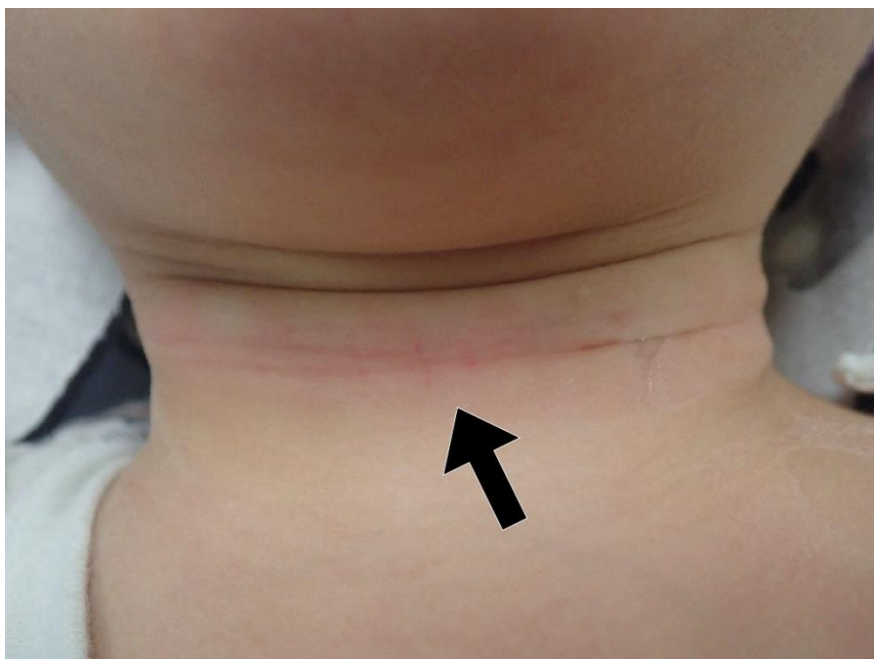
ロールカーテンの紐による縊頸 (No. 36 カーテンの留め紐による縊頸の類似事例 4)

事例	基本情報	年齢：1 歳 10 か月 性別：男児 体重：11.8kg 身長：88.0cm
	家族構成	父、母、兄（4 歳）
	発達・既往歴	なし
臨床診断名		窒息
医 療 費		入院 140,290 円
原因 対 象	対象名称	ロールカーテンの紐
	入手経路 使用状況	1 年前に家を建てた際に設置、新品
発 生 状 況	発生場所	自宅の寝室の窓際
	周囲の人 周囲の環境	本児は兄と 2 人で寝室にいた。母と父はそれぞれ寝室の隣の別々の部屋にいた。寝室内のベッドは、ロールカーテンのある窓枠の下に壁に接する位置に配置されていた。ロールカーテンの紐はプラスチックの数珠状で、下端はベッド上から 70cm 程度の高さで、患児の手が容易に届く高さであった。(図 1) 受傷直後、兄は寝室内のベッドの上に座っていたとのことであった。
	発生年月日	2020 年 12 月 X 日 (水) 午前 7 時 56 分頃
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	午前 7 時 40 分頃、患児が兄とともに寝室に向かうのを母が目視した。移動後 2 人の声が寝室から聞こえていたが、7 時 56 分頃に急に声が聞こえなくなったため、父が寝室に見に行った。発見時、本児はベッド上で、部屋の角側に向かって立っている状態であった。ロールカーテンの紐が前頸部に引っかかり前傾姿勢の状態であった。周囲にベッド以外のものはなく、足はベッドについていたが、踵がついていたかどうかは不明であった。すぐに父が本児に巻きついていた紐を外したが、患児は閉眼し、呼びかけ・揺さぶりに対して反応がなく、顔面蒼白でぐったりしていた。母が救急要請し、父が本児を抱き上げて呼びかけや揺さぶるなどの刺激を与えていたところ、2～3 分後に本児が突然むせこみ、開眼し啼泣した。その後救急隊が到着し、医療機関へ救急搬送された。搬送中も活気は低下していたが、発語や従命動作はあった。

医療機関受診時 以降の治療経過 転帰	医療機関到着時、気道・呼吸・循環・意識は保たれていた。バイタルサインは、心拍数 120 回/分、呼吸数 34 回/分、SpO₂: 100% (室内気)、体温 36.7 度であった。顔面に点状出血が散在し、前頸部・側頸部には赤い索状痕 (図 2、図 3) があつた。頸椎単純 CT で明らかな骨傷がないことを確認後、頸椎カラーが抜去された。胸部 X 線では陰圧性肺水腫を積極的に疑う像は認めなかった。同日、一般病棟に入院し、入院翌朝まで絶食・補液で管理された。呼吸窮迫症状や神経学的異常所見の出現はなく、食事摂取の問題もなかったため入院翌日に退院した。退院 1 週間後の診察では、心身の明らかな後遺症がないことを確認した。また、家族の同意を得て地域の保健センターおよび子ども家庭支援センターに情報提供を行い、訪問での事故予防指導を依頼した。
-----------------------------------	---



【図 1】 ベッドとロールカーテンの紐の配置図



【図 2】 前頸部の索状痕（矢印）



【図 3】 側頸部の索状痕（矢印）